

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名：地域連携・交通部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野古道センター（尾鷲市大字向井字村島12番4）
指定管理者の名称等	特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク 理事長 林 伸行（尾鷲市野地町12番27号）
指定の期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1)センターの事業の実施に関する業務 2)センターの利用許可等に関する業務 3)センターの利用に係る料金の収受に関する業務 4)センター施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5)センターの管理運営上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R2	B		指定管理期間第4期においても、熊野古道伊勢路及びその周辺地域の魅力を広く発信するとともに、地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会、地域内外との交流イベント等を実施し、東紀州地域の情報発信や交流拠点としての役割を十分果たしている。 コロナ禍においては、感染防止対策としてガイドライン作成や来場者への周知を行いながら、必要に応じて、休館措置や主催事業の中止・延期等を行うなど、感染防止に努め、施設運営を行った。 また、来場者が快適な環境で施設を利用できるよう、定期点検や修繕等に取り組むなど、県と密に連絡を取りながら施設の維持管理を適切に行っている。
R3	B		
R4	B		
R5	B		
R6	B		

3 施設の利用状況

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
R2	B		コロナ禍の影響により、年間来場者数が目標を達成したのは令和6年度のみであったが、令和6年度の年間来場者数及び対前年増加率は開館以来過去最高を記録している。世界遺産登録20周年という節目の年を生かした周年イベントや企画展などを開催し、集客に繋げた点は大いに評価できる。 施設稼働率は、全期間、目標を上回っており、非常に高く評価できる。
R3	B		
R4	B		
R5	B	+	
R6	B	+	

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	355,472,000	事業費	34,619,750
利用料金収入	2,216,330	管理費	329,374,601
その他の収入	9,459,725	その他の支出	0
合計 (a)	367,148,055	合計 (b)	363,994,351
収支差額 (a)-(b)	3,153,704		

※参考

利用料金減免額	160,270
---------	---------

5 成果目標及びその実績

	指定管理者 の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績						
			成果目標項目	目標値	R2実績値	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値
R2	B		1 施設稼働率(%)	50	53.8	68.5	69.9	69.7	69.3
R3	B		2 来場者数(人)	115,000	97,160	98,345	111,335	111,570	137,689
R4	B		3 地域の歴史・文化に関する情報収集及び、集積の成果発信						
R5	B		1)東紀州地域内での開催(回)	10	12	11	11	17	29
R6	B	+	2)東紀州地域外での開催(回)	2	2	4	1	2	4
			3)県外の開催(回)	1	1	1	2	3	1
			4 国内外の世界遺産登録地等との連携事業(回)	2	4	2	3	3	3
			5 学校連携事業(校)	25	92	113	53	23	25
			6 利用者の満足度(%)	95.0	99.0	99.0	98.9	98.2	98.9
全期間におけるコメント									
令和2年度～令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、成果目標の一部が達成できなかった。しかし、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されて以降、積極的に活動を行い、特に令和6年度は熊野古道世界遺産登録20周年にちなんだイベントや企画展等を数多く開催したことなどから、来場者数は、過去最多を更新し、結果として目標来場者数を大幅に上回った。									

6 総括評価

- ・ コロナ禍においては、長期休館やイベント等の中止を余儀なくされた期間があったにも関わらず、指定管理期間第4期における成果目標を概ね達成している。
- ・ 長期休暇期間を利用して小・中学生向けの交流イベントや体験学習教室を開催し、熊野古道伊勢路をはじめとした東紀州の魅力を次世代に伝える取組を積極的に行っている。
- ・ 企画展やイベントではアンケートを実施し、来場者のニーズ把握に努め、より良い展示やイベント運営に生かしている。
- ・ 開館以来18年が経過しているため経年劣化による施設設備の損傷等が散見される。そのような状況においても、来場者が快適に利用できるよう日常点検や巡回を行い、不具合や危険箇所等を発見した時は県と連携を図りながら迅速に対処するよう努めている。
- ・ 来場者へのサービスが損なわれない範囲で、不要な電気の消灯や空調設備の温度設定の見直し等の節電対策や両面コピーの徹底など環境に配慮した省エネの取組を行うと同時に、経費削減に努めている。また、情報公開・個人情報保護についても、指定管理者にて定めた要領に基づき適正に対処している。
- ・ 障がい者就労施設等からの優先的な調達や男女共同参画社会実現への取組、人権を尊重した取組といった県施策に配慮した取組を行っている。

県外への認知度拡大などにおいて課題はあるものの、これまで積み重ねた管理運営経験とそこから得たノウハウを生かした運営を行っている。地域の資源を活用した企画展や体験学習、講座・講演会等を実施し、東紀州地域の情報発信や交流拠点としての役割を十分果たしている。

施設の設置目的である「熊野古道に関する歴史、自然、文化等を紹介するとともに、人及び情報の交流を通じて地域の振興に寄与する」の達成に向け、指定期間を通じて適切に管理業務を実施していると評価できる。

- ※ 「2 管理業務の実施状況」の自己評価

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- ※ 「3 施設の利用状況」
「5 成果目標及びその実績」の自己評価

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
- ※ 県の評価

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。